

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2015.1.15/25 No. 218 連絡先 FAX 042-555-1911



横田座り込み70回 沖縄県民と連帯し首都から米軍基地をなくそう！



1月18日は、横田基地の撤去を求める西多摩の会の第70回座り込みでした。

小泉親司さんが70回を記念して『『オール沖縄』のたたかいと米軍横田基地』のミニ講演を行いました。名護市長選、県知事選、総選挙で県民の民意は明確なのに、民意を無視した工事再開強行、民主主義をな



いがしにした安倍政権の暴走政治。怒りがこみあげてきますが、沖縄県民はねばり強くしなやかに、たたかっています。座り込み行動参加者一同で、安倍政権に厳重抗議、新基地建設中止を！の決議をあげました。この日の参加者は90名を超えました。うたごえのオープニング、休憩時間は、おいしいお汁粉で舌鼓を打ちました。

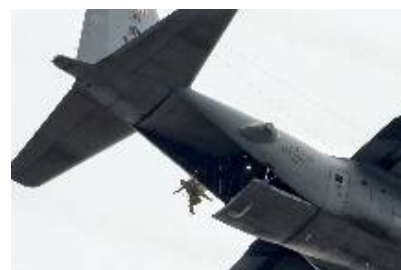
1月5～9日のパラシュート降下訓練は、米空軍嘉手納基地の特殊部隊

米軍から北関東防衛局を通じて自治体に通告されたパラシュート訓練の部隊名は明らかにされていませんが、米軍横田基地のホームページで、部隊名がわかりました。(右写真も同ホームページより)

米空軍嘉手納基地の第18航空団、第31救難中隊で、降下したのは降下救難員「パラレスキュージャンパー」(PJ)でした。

降下救難員は、敵支配地域に輸送機やヘリコプターで進入・降下して、味方の兵士を救出するなど、危険任務を実施します。

降下救難員は、パラシュート降下資格と医療資格を持ち合わせた高度なスキルを擁し、湾岸戦争後特にアフガニスタン、イラクではPJ隊員による空軍特殊部隊がチームを編成し救難作戦以外にも特殊作戦に従事している事が公になりました。(写真上はオスプレイから降下するように後部ドアから降下、写真下は機体横のドアから降下。)



C-17輸送機、エンジン起動時に発火 ライト・パターソン米空軍基地

「米オハイオ州にあるライト・パターソン空軍基地で1月14日、米空軍第445空輸連隊のC-17輸送機のエンジンが起動時に発火した。発火したエンジンをすぐに閉めて離れたが、炎により翼がひどく損傷した。」との報道がありました。C-17輸送機は毎日のように横田基地へ飛来しています。見過ごすことはできません。2010年にはアラスカで墜落しています。

沖縄 米軍ヘリ ミサイル発射装置など(200kg超)落下さす (No. 218 の裏面)



米海兵隊普天間基地所属の攻撃ヘリコプター AH1W「スーパーコブラ」が1月15日17時半ごろ、渡名喜村の米軍出砂島射爆撃場（入砂島）の南西海上を訓練中、合計で重さ200kgを超す三つの装備品を落下させていたことがわかりました。落下させた装備品は金属製のミサイル発射装置で、109kgの「ヘルファイアミサイルランチャー」と、65kgのミサイル

ポッド、34kgの燃料タンクで、合計208kgです。（写真：AH1Wスーパーコブラ、米軍HP）

「赤旗」18日付によると、知念吉男・宜野湾市議市議は「年始からMV22オスプレイやAH1W攻撃ヘリなどが住宅地上空で激しい旋回訓練を行い、住民から苦情が寄せられていた」と憤り、上原哲明・渡名喜村議は「15日は風が強く、漁師は船を出していなかったが、いまはカツオの最盛期。日常的に数十隻が操業し、訓練場はフェリーの航路にもあたる」「いつ大惨事が起きてもおかしくない事態だ。米軍射爆撃場をはじめ基地は即時撤去すべきだ」と話しています。

横田基地に 電子戦攻撃機EA-18G グラウラー3機が飛来



1月9日14時40分頃、EA-18G グラウラーが3機が着陸しました（グラウラーとは「うなる者」の意）。爆音がすごい。

ウィキペディアによると、EA-18GはEA-6B プラウラーの後継機の電子戦攻撃機で、複座型の戦闘攻撃機FA-18Fスーパーホーネットを改造する形で開発されました。EA-18Gは主翼両端に戦術無線周波受信機を装備しているのが大きな特徴。その他の電子戦装備は戦術妨害装置、通信対抗手段セット。火器管制レーダーを搭載しており、自衛用として空対空ミサイルを搭載可能。また、対レーダーミサイルを運用可能であり、電子戦機でありながらFA-18E/Fに相当する戦闘攻撃力を有しています。

米軍の再編で 大型機(C-17やC-5、KC-135やKC-10)の飛来が増えた

2014年の横田基地への軍用機飛来ランキングは、1位：C-17 グローブマスター、2位：C-5ギャラクシー、3位：KC-135 ストラトタンカー、4位：KC-10 エクステンダーと大型機が独占、4機種の飛来合計は708回です。2011年は351回でした。2014年は2倍に増えています。

アメリカは、航空機動軍という航空輸送部隊を組織しています。この部隊は、全地球的規模で戦闘地に迅速的に人、物資、給油など補給・輸送を任務とする部隊です。横田基地には、以前から航空機動軍のパッセンジャーターミナルが置かれ、航空機動軍第730飛行中隊が運用の任務を帯びていました。2008年6月、航空機動軍の再編によって横田基地に第515航空機動運用群が発足しました。航空機動軍の太平洋地域においては、それまで6つの航空機動飛行中隊を一つの運用・管理部隊が監督してきましたが、あまりにも広域であることから効率性の改善のため実施したそうです。当時、横田基地の騒音増が懸念されました。それが現実になりました。

第515航空機動運用群は主に太平洋の西側を担当、第730（横田基地）、第731（韓国・オーサン基地）、第733（カデナ基地）の3個機動中隊からなり、飛来するC-17、C-5、C-130、KC-10A、KC135及び有事に徴用される民間予備航空隊の整備・補給等後方支援を実施します。なお、第715航空機動運用群は太平洋の東側の、第732（アラスカ・エレメンドルフ基地）、第734（グアム・アンダーセン基地）、第735（ハワイ・ヒッカム基地）の3個中隊で同様な任務を実施しています。